

Vidigueira

について



ヴィディゲイラ

この地の集落の存在は、13世紀になるまで文書として残されていません。しかし、この地域に有史以前から人が居住していたことを示す証拠があります。ここで発掘された巨石遺跡のほか、サン・ククファテ（São Cucufate）やモンテ・ダ・セゴニャ（Monte da Cegonha）といった近くの古代ローマ時代の村も注目を集めています。

防衛や軍事の戦略上何ら重要性を持っていなかったこの町は、基本的に農業を中心に発展してきました。このことは、ヴィディゲイラ（Vidigueira）が産地管理呼称地域に指定されているワインの生産からも容易に推測されます。

15世紀にはすでにワイン生産の中心地として定評を博しており、19世紀には国内第7位のワイン生産量を誇るようになりました。

ヴィディゲイラの名は、1519年にマヌエル1世（D. Manuel I）（1495年～1521年）によりヴィディゲイラ伯爵に序せられた歴史的人物、ヴァスコ・ダ・ガマ（Vasco da Gama）にも関連しています。この当時、ヴァスコ・ダ・ガマによって建てられたCasa da Vidigueira（Casa da Vidigueira）は20世紀までこの一族の所有物でした。町の時計塔は、キリスト騎士団の十字架やガマ家の紋章とともに1520年の年が彫刻された鐘が時を刻んでいます。

また、ヴィディゲイラから約2キロメートル離れた場所でもヴァスコ・ダ・ガマの面影をしのぶことができます。それは、ノッサ・セニョーラ・ダス・レリキアス修道院（Convento de Nossa Senhora das Relíquias）の教会の祭壇（現在では当初のデザインに大幅な変更が加えられています）で、インドへの航路の発見者の遺体が1539年にコシム（Cochim）から戻ったとき、まずここに安置され、その後、1898年に最終的にジェロニモス修道院（Mosteiro dos Jerónimos）に移されました。